＜特別寄稿＞

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第41回　アメリカニンジン

アメリカニンジンはウコギ科に属する多年生草本で、オタネニンジンに極めて近い種でカナダやアメリカ北部に自生していました。宣教師により中国の人参の情報がヨーロッパからカナダに寄せられのが1711年のことです。

1716年ついに原住民がアメリカニンジンを発見し、1735年リンネにより学名Panax quinquefolius Linneがつけれました。

噂を聞きつけた中国人が押し寄せ、1800年頃には自生種を掘り尽くすに至りました。その後保護と増殖が進み、現在では乾燥品が年間1000トン以上生産され中国等へ輸出されています。従前は中国の受け入れ港が広東だったため、広東人参と呼ばれていました。

また、中国では洋参とも呼ばれ通常の人参より高価で取引されています。アメリカ人参は、人参と形態もさることながら成分もよく似ています。老人の唾液分泌促進、口内炎、歯肉炎症、安眠、神経衰弱、咳・喀血等に用いると書かれています。

本画は1700年代末にZornにより描かれたものです。形態は根や果実等オタネニンジンとほぼ同様です。